

1 学校として目指す授業

言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など基盤的な資質・能力の定着を図る。対話や協働学習を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する。

2 生徒の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（中学校3年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
(東京都の平均との比較) ・国語、数学、英語ともに上回っている。 ・学習した内容を見直し、次の学習につなげることができる割合が低い。 ・学習が将来役立つと思う割合がやや低い。 ・問題発見、情報活用能力、基盤的な資質・能力の定着を図ることが課題である。	(東京都の平均との比較) ・自己肯定感や学校生活に関しては肯定的な回答が多い。 ・地域や社会に貢献したいという思いが低い。 ・話し合いを生かした自発的な努力が低い。 ・学校活動全体で対話や協働的な学習を工夫していくことが課題である。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析

- ・自己の学習方法に問題を感じている生徒が5割弱いる。
- ・9割以上の生徒が公式や言葉覚えることの重要性を感じ、意味を理解した上で覚えることに取り組んでいる。
- ・難しい問題に諦めずに最後まで考えて取り組むことが苦手な生徒が3割強いる。
- ・集中力をもって取り組めない生徒は2割程度いる。
- ・学習方法に工夫した取り組みが必要である。
- ・言葉や公式など覚えたことを活用する能力を伸ばしていくことが課題である。
- ・問われている内容に知識や考え方を活用した、思考力の伸長が課題である。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

- ・五中生活向上アンケート

タブレット端末の使用で調べる力や考える力が向上したという生徒が8割近い。人と話し合う力の向上を感じていない生徒が2割程度。生徒同士の対話、自己対話などの時間を設けて、課題を改善していく必要がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・学習の習慣は身に付いており、知識的な習得もできているが、自ら課題を見つけて取り組み、解決していく能力に課題がある。
- ・自らの学習方法に工夫をしながら粘り強く取り組み、継続して学習していくことが課題である。
- ・思考・判断・表現の観点などを元に身に付けた知識を活用して、自らの考えを発展させ、表現することが課題である。
- ・話し合う力や、話し合ったことから問題解決に導いていく力を自他との対話や、協働学習のなかで培うことが課題である。

4 学校全体の授業改善の視点

習得した知識を活用して自分の考えを表現したり、課題を解決したりする方法を考える場面を設けることが必要である。生徒から多様な考えが出るような発問を行い、他者の意見を理解しながら新たな理解が得られる機会を与える必要がある。ICTを活用するなどして、生徒が自分自身で目標を設定して取り組めるような課題を設定するなど個別最適な学びに向けて取り組んでいく。対話や協働学習を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する指導方法を各教科で一層推進していくことが課題である。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。  
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 生徒の現状」に、まとめる。
- ③「2 生徒の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 生徒の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 生徒の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 学校指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。  
評価 ○...実施した。 ◯...一部実施した。 △...未実施

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	数学	評価	理科	評価	音楽	評価	美術	評価	保健体育	評価	技術・家庭	評価	外国語	評価	道徳	評価
1 学 年	・単元のまとめの言語活動において、周りの意見を聞いて自分の考えをまとめる学習を取り入れる。		・毎時間の目標を明確にし、見通しをもたせる。地理的な見方・考え方や歴史的な見方・考え方を働かせ、多角的に考察できるようにする。		・基礎的基本の定着を図るために、反復練習をする時間を授業時間内に意図的に設け、互いに教え合う時間も確保する。		・自ら疑問をもち主体的に学べる発問の工夫を行う。 ・レポート指導において探求の過程を通じた学習活動を行う。		・歌唱については基礎基本の充実を図り、自主的な取り組みを行う。 パート練習が自分たちで進められるようにする。		・ICTを活用し、制作の手順を分かりやすくし、見通しを立てながら制作できるようにする。		・ICT機器を使用し、自分の映像を撮影し、見本映像と見比べて自分の運動を改善する機会を増やす。		生徒自らの問題に応じた個別最適な計画・製作が行えるように、ICT機器等を利用した工夫を行う。		地域に目を向けさせるような言語活動を設定し、市民性を高める。加えて、生徒が自らの興味・関心に応じてゴールを設定する学びの場を設ける。		毎時間の指導内容とねらいを確認する。また、他者と対話をする機会をつくり、新たな価値観に気付かせる工夫を行う。	
2 学 年	・振り返りの時間を設けることにより、自らの学習課題に気付かせる取組を行う。		・歴史的事象や地理的事象に対して、対話を通して自分の考えを深めたり、相手の考えを聞いたりする場を設ける。		・単元の導入部分やまとめの問題で、実生活にそった具体的な事象を多く取り入れ、関心高められるようにする。		・タブレットを活用し、指導の個別化を図る。 ・課題の振り返りを行い、日常生活や既習事項、他教科との関わりについて等の思考の深まりを評価する。		・ワークシートの内容を発表し共有する中で自己の課題を見付け、より豊かな表現につなげる。		・様々な作品を参考にしながら、鑑賞しあい、互いに自己の発想を高めることができる。		・保健分野におけるICT機器の使用。 ・保健分野の授業の話し合い活動においてformsを使用し、役立てる。		食育を推進するために、主体的・対話的な学びを意識したワークシートの工夫や場面を設定する。		言語活動等において目的・場面・状況を意識させて取り組ませる。また生徒が自ら目標を設定し、自分に合った学習方法を選択する機会を与える。		生徒自身が問題意識をもち、対話によって自分と異なる意見と向かい合う場面を設ける。	
3 学 年	論理的に考える力や感じたり想像したりする力を養うために、自分の考えを伝えあう時間を多く設ける。		・現代社会の課題や、憲法で保障される我々の権利、政治経済の動向について、身近な話題を通して自分のこととして受け止め、自ら課題を設定できる活動の場面を設ける。		・互いに教え合う時間を設定し基礎基本の定着を図り、対話を通して課題解決に向けて考えを共有できるようにする。		・生徒自身が学習活動を見直し、振り返り、課題を解決できるように、ICT機器を活用と発問の工夫をする。 ・レポート指導において探求の過程を通じた学習活動を行う。		・目標の設定と振り返りを行い、主体的な表現の向上を図る。 ・タブレットを使用した練習により、課題を見付け、課題解決に向けた練習を行う。		・多様な技法、素材に慣れ親しみ、様々な作品を参考にしながら、工夫して表現できる。		・保健分野におけるICT機器の使用。 ・男女共習の推進、レベル分けをした内容で興味関心を高める		タブレットによる調べ学習を行い、生徒自ら知識を主体的に獲得し、生活や社会の中で活用する力を身に付けさせる。		言語活動等において、目的・場面等を理解した上で自分の考えを論理的に述べたり、他者と意見を交換したりする場面を設定する。また、生徒自身が目標を設定し、自分に適した学習方法を選択して取り組む機会を設ける。		生徒自身が問題意識をもち、対話によって自分と異なる意見と向かい合う場面を設ける。また、タブレットも活用し道徳的価値の理解を深める工夫をする。	